Pleasanter
Business Application Platform

導入事例

JOYSON SAFETY SYSTEMS

ハイセーフティ製品の試験データを完全に保全するシステムを開発
イントラマートのワークフローにプリザンターを連携させて実現

Joyson Safety Systems Japan 株式会社
IT 本部アプリケーション室開発グループ グループ長 大槻 高広 様 (左)
IT 本部 本部長 川崎 直人 様 (中央)
IT 本部アプリケーション室開発グループ 野﨑 峻平 様 (右)

運用中のプリザンターを監査基準対応システムに採用

イントラマートと連携しデータの完全性の担保を実現

各拠点の要望に対応し海外拠点へもスムーズに展開

課題：厳格な管理が求められる製品の試験結果や承認のデータ 公的機関の基準をクリアし、信頼性の向上につなげる

Joyson Safety Systems Japan 株式会社 (JSSJ) は自動車の安全部品を開発・製造する日本を代表するメーカーです。従来、衝突が起こった際に乗員を保護する製品を開発してきましたが、近年は、衝突を事前に検知して保護したり、衝突を回避したりする「アクティブセーフティ」の観点から、次世代の安全デバイスの研究開発にも力を注いでいます。

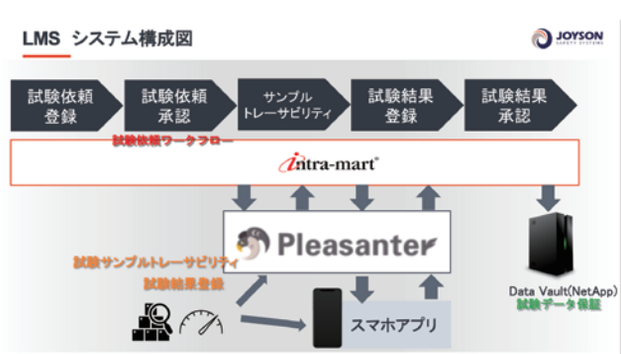
そうした中、重要となるのが、安全デバイスを開発する際の評価試験データを、いかに正確に保存しておくかということです。専門的には「データの完全性（データインテグリティ）」と言いますが、安全デバイスを提供するメーカーとして、それを担保し、信頼性を高める仕組みを構築することが急務だったのです。

当時の状況を JSSJ の IT 本部アプリケーション室の大槻高広氏はこう話します。「製品の評価試験を行う技術評価部から、データの完全性に関して、海外の公的機関の監査基準を順守できるシステムの開発の相談を受けました。基準は厳格であり、誰がいつどのような試験をしてどういった結果を得たのか、あるいは、誰がそれを承認したのかといった様々な試験に関わる全てのデータを、以後の変更が不可能な状態でデータベースに保存する必要があったのです」。

公的機関に加え、製品の供給先である自動車メーカーの信頼につなげるためにも、データの完全性を担保するシステムの構築は最重要事項となっていたのです。

システムの選定：インシデントとプロジェクト管理にプリザンターを活用 イントラマートと連携して試験と承認のログを完全保存

実は、IT 本部では既にプリザンターを別の業務で導入済みでした。IT 本部が提供する社内向けサービスに関するインシデント管理、改善のためシステムを改修や構築する際のプロジェクト管理で、プリザンターを数年にわたり、活用してきたのです。「プリザンターは画面がユーザーフレンドリーで入力が簡単。必要な項目も自由に増減でき、構築も容易です。他の業務管理ツールと比べ、その優位性は顕著であり、さらに、導入コストが基本的に無料であることも大きな魅力でした（大槻氏）。導入後は、IT サービスの管理が可能になり、IT 本部では、ログの蓄積にとどまらず、KPI を設定し、サービスの向上につなげるサイクルも実現。「使い勝手が良いプリザンターであれば、技術評価部の現場でも入力が促進され、データの完全性の保証が可能になると判断したのです」（大槻氏）。



ラボマネジメントシステム（LMS）の構成図。プリザンターとの連携で、イントラマートのワークフローのログを保存。

Implem inc. All Rights Reserved.

導入：変更不可の WORM(Write Once Read Many) ストレージとスマホアプリも連携。アジャイル開発で実装を優先し、改修と追加で完成形へ

データの完全性を保証するシステムの構築は、プリザンターを提供するインプリムが開発を請け負い、導入を推進しました。システムでは、プリザンターで試験を行う製品をサンプル登録し、「誰が作って運び、誰が受け取り、テストを行い、結果はどうだったか」という非常に細かい項目まで入力し、全てをログとして残すことができるように設計。

さらに、全てのデータは一度保管すると削除も変更もできなくなる、NetApp の SnapLock という機能で実現した WORM ストレージに自動的に蓄積される仕組みを構築。これによって、一度入力した全履歴が変更不可能な状態で保存される“データの完全性”が担保されています。導入後、システムの正確性と効率性をもう一段高めるため、入力デイバスとしてスマートフォンの導入にも踏み切っています。

こうした開発で奏功したのが、インプリムがアジャイル開発の手法を取り入れている点です。「コストとスピードの面で、アジャイル開発は従来にないシステムを導入する際に非常に有効」と、大槻氏は評価します。

「交通事故による犠牲者がゼロになる日」を目指し、高品質で信頼性の高い安全システムでのソリューションをお客様に提供している。

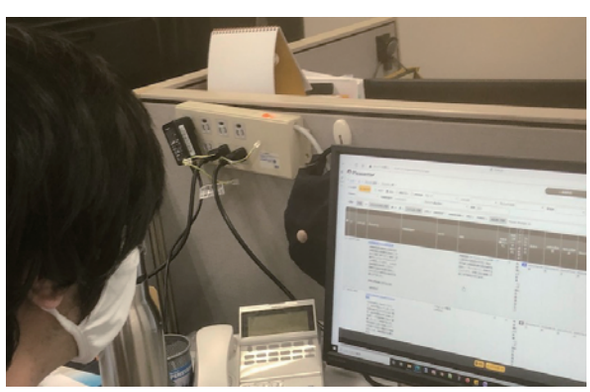
効果：製品の試験結果のデータの完全性を確立 アジア各国の拠点にも展開し、当局の監査基準をクリア

プリザンター、イントラマート、WORM ストレージ、スマホアプリの 4 つのツールが連動した独自のシステムは「ラボマネジメントシステム（LMS）」として、数年前から稼働しています。JSSJ 製品の試験結果の正しさを担保するシステムとして、海外の公的機関の監査基準をクリアし、信頼性を裏付ける仕組みとなっているのです。

また、この LMS はアジアの各拠点にも導入を果たしています。プリザンターは多言語対応しているため、海外展開が容易。各国では入力項目が異なっていたり、回線のスピードが遅いエリアがあったりしましたが、インプリムがその都度チューニングし、各拠点で問題なく使える状態となっています。

「各拠点にも海外の公的機関の監査が入っていますが、日本と同じシステムのため、『データの完全性が保持できている』という説明がしやすいのが利点です。もちろん、全ての拠点で当局の監査基準はクリアできています」と、IT 本部アプリケーション室の中西奈緒子氏は話します。

JSSJ では、調達部門や技術企画室など他部署にもプリザンターの導入を提案し、社内での横展開を図っています。今後も LMS を含めて機能強化を図り、業務効率をより高めていく計画です。



JSSJ 社内では、ラボマネジメントシステム以外にもプリザンターを活用して業務を効率化している。

JOYSON SAFETY SYSTEMS

企業名：Joyson Safety Systems Japan 株式会社
ＵＲＬ：https://hr.jp.joysonsafety.com/
所在地：東京都品川区東品川 2-3-14 東京フロントテラス
設　立：2018 年 1 月 23 日
資本金：38 億 8,143 万 1,115 円

自動車の安全分野におけるグローバルリーダーである Joyson Safety Systems（JSS）の日本法人。シートベルト、エアバッグ、ステアリング・ホイール、チャイルドシートなどの製造販売を手掛ける。年商 678 億円（2020 年 12 月期）。

こちらの記事は本編の文章を一部抜粋したものです。
導入事例全文は Web で！ **https://pleasanter.org/**

株式会社インプリム
〒165-0026 東京都中野区新井 1-12-12 モデリアカラーズ中野 2F
Tel: 03-5942-6640　Fax: 03-5942-6650
https://implem.co.jp

Implem inc. All Rights Reserved.